

令和5年度 黒部市環境審議会

日時 令和6年2月20日(火) 15:00~16:00

場所 黒部市役所4階 第2委員会室

出席者

(委員)

楠井 隆史	富山県立大学 名誉教授
平野 正義	黒部市農業協同組合 代表理事組合長
岡田 常男	黒部川左岸土地改良区 理事
西本 初博	黒部市自治振興会連絡協議会
島 武夫	黒部商工会議所 専務理事
串田 泰彦	富山県農林水産総合技術センター農業研究所 所長
松田 留美子	富山県新川厚生センター 次長・衛生課長
稲垣 里佳	富山県地球温暖化防止活動推進員
米陀 峰信	黒部市環境衛生協議会 会長
大矢 慎司	黒部名水会 事務局 次長

(欠席)

浜松 直昭	くろべ漁業協同組合 事業課長
中山 純一	富山県環境科学センター 所長
田子 泰彦	富山県農林水産総合技術センター水産研究所 所長

(幹事)

魚谷 八寿裕	黒部市総務管理部長
島田 恭宏	黒部市市民福祉部長
高野 晋	黒部市産業振興部長
山本 浩司	黒部市都市創造部長
藤田 信幸	黒部市教育部長

(事務局) 黒部市市民福祉部市民環境課

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員及び幹事の紹介
4. 審議事項
 - (1) 環境基本計画の進捗状況
 - (2) 環境の現況
5. 報告事項
 - (1) 黒部市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の概要
6. 閉会

資料

1. 黒部市環境審議会 委員名簿
2. 黒部市環境基本計画進捗状況報告
3. 環境の現況 ・「とやまの名水」水質検査結果
 - ・河川水質検査結果
 - ・大気汚染調査結果
4. 黒部市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の概要

1. 開会

2. 挨拶 楠井会長

本審議会は、黒部市環境基本条例に基づき設置をしており、黒部市環境基本計画の進捗状況や本市における環境保全に関する事項について関係ある幅広い分野の皆様からご意見やご助言をいただきたく開催をさせていただいた。

この計画は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的としている。取組の進捗を定期的に把握・評価するため、本審議会を点検評価の場として、環境施策のあり方・方向性についてご審議ご意見を賜りたい。

3. 委員等の紹介

4. 審議事項

(1) 環境基本計画の進捗状況

事務局 資料2に基づき、説明。

会長 意見や質問等ございましたら、お願いします。

委員 8ページ、再生可能エネルギー導入の促進について、黒部名水会は黒部の名水について勉強して、守って、活かそうという活動をしている。活かすという中で、小水力発電に活用できないかという話しをしている。数値目標にある、水力発電施設の整備箇所数について、計画目標値まであと3か所、具体的な候補地等現時点であるのかお聞きしたい。

事務局 小水力、マイクロ発電の可能性調査はしているが、候補地については適地が見つからない。今後は公共のみでなく、民間活力による設置も考慮に入れながら、検討してまいりたい。

会長 水量や水利権の関係もあり、水が豊富といいながらも適地という観点では実現が難しいこともある。

委員 8ページ、省エネルギーの促進について、防犯灯と街路灯等のLED化が数年で達成を目指しているということ。前倒ししてもやっていただきたい。

事務局 防犯灯については、令和5年度末までにほぼ100%の達成率となる見込みである。街路灯についても調整を進めており、今後も順次交換が進んでいくこととなる。

委員 指標に関して、実績値が計画値を超えているものがいくつかある。上方修正等の検討はされないのか。

事務局 指標については、第2次黒部市総合振興計画の目標値を用いている。総合振興計画は、令和4年度に後期基本基本計画を策定し、目標値についても見直しを行っている。今回は平成30年度に策定した黒部市環境基本計画の中間年度にあたる年の実績値を確認することもあり、当初の目標値をそのまま記載しているところ。次年度以降は目標値が見直された指標については、見直し後の目標値を使用することとしたい。

委員 6ページの資源物収集は、減少傾向にある。資源物の軽量化が進んでいることも一因ではあるが、今後資源ステーションや常設資源回収所の増加、地域の町内会やPTA等の資源回収の回数を増やすなど抜本的な改革がないと数値目標の達成は難しいと考え

る。これについて、現在検討していることを教えてほしい。

事務局 市民の資源物に対するリサイクル意識の高まりは感じているところ。現在市内の常設資源回収所は3か所あり、それ以外にもスーパー等の事業所においても資源物回収の取組がなされている。市内事業所とも連携をとって、資源物の回収に協力していただけるような環境作りについて努力してまいりたい。

委員 事業系のごみがなかなか減っていない。事業系ごみをリサイクルにまわしてもらえよう取組があれば、資源物の増加やごみの減量化も図られると思う。このような取組をぜひ検討していただきたい。

委員 12 ページ、黒部名水会では毎年5校ずつ小学校に出前授業を行っている。そこでは、市内小学校の児童に黒部の豊富で綺麗で美味しい名水の用途を説明している。まず農業用水、「名水の里・黒部米」、1億円の出荷額を誇る「ネギ」等の生産に。工場で製造に使われる工業用水。そして皆が、手洗い、炊事、歯磨き、トイレ、お風呂、洗濯などに使う生活用水。と説明している。元日の「能登半島地震」では断水が発生し、いまだ復旧してない地域があり、心を痛めている。1/28の北日本新聞に「水道管 耐震性向上を」の記事を目にした。「県内の基幹管路の耐震適合性割合（2022年度末）」で、県全体42.1%、黒部市は8.3%にとどまる。市上下水道工務課は、基幹管路は全体の4%に当たる約10kmとし「優先順位の高いところから更新を進めている」とあった。

是非、基幹管路の更新を前倒しで進めていただき、「断水しない生活用水」を確保して、次世代の市民に安心を届けていただきたい。更新の計画について見解を求め

る。また、黒部市内は湧水が豊富で、公民館には手押ポンプの井戸があり災害断水時でも心配には及ばないということであれば、それを広報して頂きたい。

提案ですが、「黒部市環境基本計画（第2次）」の基本目標3「名水の里にふさわしいまちづくり」の施策に「水道管の強靱化」を追加し、毎年審議会で進捗し、5年後の2028年に策定される第3次に繋がれば宜しいかと思う。是非前向きにご検討をお願いしたい。

幹事 水道管の更新については、優先順位をつけながら順次更新している。国の耐震化の基準に合致するような更新を引き続き行っていきたい。

給水が必要となる場合については、市で所有している給水車で対応となる。1月の地震対応として、氷見市や高岡市に応援に行っているところ。有事の際には、給水車を活用して、市民の皆様には安全・安心に努めたい。

委員 12 ページ、水資源の活用に取り組む企業数で、具体的にどのような企業があるのか。

事務局 お酒やミネラルウォーター等の水そのものを商品として販売している会社をカウントしている。

会長 県では現在、富山県地下水指針の改定を行っており、その中で意見があるのが、地下水の適正揚水量というところで、それを超えなければよいのか。過剰に使用しないということと併せて、地下水の涵養にも取り組んでいただきたいということを行っている。黒部市は地下水資源が豊富ではあるが、使い放題ということではなくて、植林をする等なんらかの形で地下水の涵養に取り組んでいただければ本当の意味での地下水の活用になるのではないか。

会長 防災という面についても話しが出ている。この後事務局から、とやまの名水について水質検査の結果報告もあるが、このような「とやまの名水」が防災の時に使える可能性を黒部市の場合かなり秘めているのではないかと思っている。そのような意味でも名水を大切にしていこうという必要性が改めて出てきている。

事務局 はっきりとした根拠は分からないが、今言われた部分の影響はあると思う。

(2) 環境の現況

事務局 資料3に基づき、説明。

会長 大腸菌数について、いくつか基準を超過しているところがある。原因の推測はしているか。

事務局 原因については特定できていない。上流部にある複数の企業のうち、畜産事業所については、聴き取りも行いながら状況の把握に努めているところ。

会長 新しい測定方法ができて大腸菌群数の中から大腸菌だけを検査できるようになったということは進歩だが、大腸菌を出すのは人間以外に畜産にも関係がある。処理施設の維持管理に注意を払う必要があるほか、全国では農集排等の下水処理施設に原因がある場所もある。県ではいくつかの地点で実証をして指導を行っている例もある。

畜産については、排水基準について強化されるという情報もあり、それが実施されれば改善されることもあるのでは。

5. 報告事項

(1) 黒部市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の概要

事務局 資料4に基づき、説明。

会長 富山県もカーボンニュートラル宣言をし、各自治体でも計画を策定しているところ。難しいのは、先に目標があってそれに向かって施策を実行していかなければならないことである。施策を実行するうえでも、先ほどの小水力発電のようになかなか簡単に話が進まない。

いろいろな分野で抜本的な、革新的な取組をやらない限り、絵に描いた餅になるので、そういう意味でわれわれの力量が問われている。

6. 閉会

以上